

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第50号 発行日2007年09月25日

Contents

11月、札幌でフォーラム	1
広島講演会の要旨	2
橋元副理事長を悼む	3
霞が関情報	4
観光人国記(広島市長)	5
グルジア大使、COLUMN	6
世界遺産、NEWSPOT	7
気象の話(夕日情報)	8



「水の都ひろしま」の実現を目指して、平成17年10月から京橋川「水辺のオープンカフェ」がオープン。市内の河岸緑地に4店舗が全国で初めて常設。夜はライトアップされ、昼間とは一味違った雰囲気！

11月札幌で第三回フォーラム「21世紀は北海道圏の時代」開く

9月、「中国支部」が誕生しJN協会の全国ネットなる

企業誘致・温暖化対策・港湾整備が必要

札幌講演会では、渡辺、須田、中尾氏が提言

「大中国圏の活性化と将来展望」は盛況

中国支部の開設記念フォーラムに200人

JAPAN NOW観光情報協会（松尾道彦理事長、JN協会）は、北海道観光連盟との共催により11月6日午後2時から札幌市の「ホテルライフオート札幌」で第3回「21世紀は大北海道圏の時代」（観光立国フォーラムin札幌）を開く。

当日は来賓として高橋北海道知事、上田札幌市長らが出席の予定。フォーラムでは渡辺前日本貿易振興機構理事長（石油資源開発副社長）が「北海道経済の活性化」、須田JR東海相談役が「観光立国と北海道観光の振興、環境保全」、国土交通省の中尾港湾局長が「北海道の港湾整備」について講演し、現状分析のうえ発展策などを提言する。

第1回、2回の「21世紀は大北海道圏の時代」は東京からの一流講師の出席もあって約350人が参加して盛況だった。今回は講師陣に経済に詳しい渡辺氏が参加し、北海道が官民一体で取り組む企業誘致（とくに製造業など）や海外企業の北海道への投資策などが披露されそうだ。地球の温暖化対策は来年7月の洞爺湖サミットの主要議題となり、また北海道の港湾整備は企業誘致との関連で欠かせない。

JN協会は9月21日、広島市の「ホテルJALシティ広島」で中国経済連合会、広島商工会議所、中国地方鉄道協会との共催で中国支部設立総会及び「大中国圏の活性化と将来展望」（観光立国フォーラムin広島）を開き、約200人が参加。総会ではJN協会の松尾理事長の挨拶のあと大田中国地方鉄道協会会長（広島電鉄社長）を中国支部長に選んだ。

大田支部長は「広島県は昨年12月、観光立県基本条例を策定。そして今度はJN協会の支部設立。官民一体となって観光推進したい」と決意を述べた。

このあと、来賓の藤田広島県知事、秋葉広島市長（代読）、福田中経連会長、石津中国運輸局長らはこもごも中国地方の観光振興の必要性を強調した。

総会のあと行われたフォーラムでは、須田寛JR東海相談役ら3氏が講演。（講演要旨は2面）

JN協会の支部は中国支部の設立により北海道から九州までの主な経済圏に10箇所設けられ、全国的なネットワークが完成した。



札幌でのフォーラムに参加希望の方は、JN協会へ

国内旅行者を増やす工夫を！

産業観光、体験型観光を提案する

J R 東海相談役 須田 寛氏

「広島路面電車はいいですねえ。今日も乗ってきましたが、時間・乗り心地とも素晴らしい」。のっけから聞き手の気持ちを捉えた。

国鉄に長く勤め、民営化ののちには J R 東海の社長、会長も務めただけに根っからの鉄道マン。いまはボランティアで、観光問題のアドバイザー、講演会の講師などで全国を駆け巡っている。グリーン車には乗らず、できるだけ公営の乗り物を使うという徹底ぶりだ。

須田氏は本も多数出している。この日も最近の著作『新しい観光』を、全員にプレゼントした。産業観光論の第一人者ぶりが窺える名著である。

以下は、須田氏の講演の要旨。

「日本の観光は曲がり角に来ている。高度成長期に盛んだった社内旅行、招待旅行の団体客を見込んで作った大型ホテルが、いまはガラ空き。有名温泉地の落ち込みは激しい。それが地域経済にカゲを落としている。政府が進めている外人客誘致は、ある程度効果を挙げているが、やはり海外に目が向いている個人や小グループ客を取り戻さなくてはならない。皆さんも、国内旅行を見直してもらいたいものだ」。

「もう国内観光に新味はない、という人も多いかもしれない。そこで、私は産業観光や体験型観光を提唱している。たとえば、神社仏閣にしても、ただ“観る”だけでなく、『誰が、どこのどんな素材を使用して建てたのか』とか、建築様式はどうなっているのか、など調べた上で観ると一味違ってくる。昔の街道や宿場町の探訪も、味わい深い」。

「グリーンツーリズムという概念がある。たとえば、輪島の千枚田で稲作を体験するような旅行は人気がある。田植え、草取り、稲刈りと、何度も足を運ぶ。地引網や森の下草刈りなど、一次産業にも汗を流したい人を集める魅力があるだろう」。

「観光業に携わる人たちも、国内客をもっと集める工夫が必要だ。近代化が遅れていると、私は思っている。旅館は、いまでも一泊2食付き方式が70%を占めている。セット料金だから『高い』という印象を与える。外国からみると、とくにそうだ。旅行業者の手数料も考慮すべき。もっとキメ細かい情報の提供にカネを使ったらいい。総合旅行商社へと脱皮する時期ではないか」。

「広島・中国地区には豊富な観光資源がある。原爆ドーム、厳島神社という世界遺産に石見銀山が加わった。瀬戸内海の造船業は、産業観光に適している。皆さん、これらを生かす道を考えませんか」。



海から見る観光、瀬戸内海は最適

海洋基本法を機に、海運と観光を考えよう

国土交通省海事局次長 大野 裕夫氏

『海洋基本法と中国地方海運振興策』というテーマで、豊富な資料をもとに話を進めた。

「海洋基本法は今年7月、海の日を期して施行された。日本が権益を有する海の広さは、世界で6位にある。海洋立国であり、輸入品の99.7%は海から運び込まれている」。

「貿易が盛んになると、海運業者の業績も上る。しかし、そこに大きな問題を抱えている。現在、日本は2000隻の外航商船隊を持っているが、日本船籍はなんと95隻に過ぎない。乗り組んでいる日本人船員は少なく、70%がフィリピン人。先進国で、こんな状況のところは無い」。

「このままでいくと、日本には外国船籍の船と外国人乗組員しかいない状況になりかねない。安全保障の上で、大変な問題になる。そこで、基本法に基づいて来年1月に作る『海洋基本計画』では、外航船のうち日本船籍船を95隻から450隻に、日本人乗組員を現在の2600人から5500人にすることを目標に盛り込みたい」。

「国内航路の内航船問題も、高齢化が深刻な問題になっている。平均年齢が45.6歳で、10年後には船員不足で船が止まることが心配されている。中国地方では、船員の求人倍率が3.44倍にもなり、人が集まらない状態。瀬戸内海で盛んな造船業も高齢化で衰退しかねない。そこで、中高校生らに船や造船を見学、海運に興味を持ってもらう事業を推進する計画だ。退職自衛官招くことも考えている」。

「中国地方は、瀬戸内海という世界的にも優れた観光資源がある。海から観る景色は抜群だから、瀬戸内海クルーズのような観光と海運振興を結びつけられる方策を考えている。皆さんも、知恵を貸して頂きたい」。



広島か岡山か — 道州制に注目を！

総務省行政管理課理事官 瀬脇 一 氏

日本を都道府県単位から道州制に変えようとする方向に動いている。その背景と問題点について「道州の導入と課題」について語った。

「明治21年には市町村が7万1千、これに対して都道府県は47。市町村は来年3月には1795になるので、地方行政単位の見直しが必要。観光、河川などより広域行政が必要になっている実態がある」。

「いま、道州制実施を目指し検討が進んでいる中で、中国州か中四国州か、が一つの課題。中国なら広島が道都で問題はなかろうが、中四国となると岡山が浮かぶ。観光推進とも係わりがあるので、皆さんも関心を持っていただきたい」。

橋元 J N 副理事長の ご逝去を悼む



元国鉄副総裁、元 J R 貨物社長

橋元副理事長は、J N 協会の行事にはほとんど出席された。遠方の支部設立総会にも自費で参加下さり、懇談会では乾杯の音頭をとっていただいた。国鉄時代、「はしもと」さんが何人かおられ、「ハシゲン」さんが通称になったそうで、J N 協会のカオでもあった。

橋元副理事長を偲ぶ

J N 協会顧問（前理事長） 丹羽晟

「モーダルシフト」を実現した橋元氏

J R 貨物社長時代に新物流システム



8月、当協会副理事長の橋元雅司氏が急逝された。

私と家内は、先輩の橋元さんを「ハシゲン」と呼ばせて頂いている程、御縁が深かった。仕事上の御縁である国鉄と運輸省の関係でいえば、橋元さんが貨物局長、副総裁、JR貨物社長の時に、私はそれぞれ運輸省側の担当の課長、部長、局長を務め、合わせて7～8年位はお相手した。中でも国鉄民営化の時には、お互いに、国鉄の最後の副総裁と運輸省の国有鉄道部長として寿命を縮めるほど働いた。

また、国際観光の面では、二人とも国際観光振興会（JNTO）やその前身であるニューヨーク事務所の勤務をしたので、JNTOのOB会では毎回の如くお目にかかり、私がJNTO会長の時には物心両面から大変なご支援を頂いた。そして、現在では当協会のみならず、当協会の兄弟NPOとも言うべき「江戸城再建を目指す会」（小竹直隆理事長）でも、私が会長になる時に三顧の礼をもってお願いして副会長を引き受けて頂いている。

橋元さんと言えば、会ったことのある人はまず、あの限りなく球形に近い体軀を思い浮かべるのが常であろう。御本人に確かめたところ、あれは若い頃から何十年も変わらないそうである。それが、ゴルフの時には腰が鋭く回転して素晴らしいショットを放つ。そして、遥かかなたに直進するボールの行方を見てから、太い葉巻を取り出してうまそうにふかし、おもむろに歩き出す。思わず見とれてしまう絵のような光景であった。

また、何かに頼まれるとニコニコしながら引き受けて下さる。頼まれて橋元さんが断るところを見たことがない。私を含めて、どれ程多くの人がお世話になったことか。

家内と二人、通夜の席に参列し、言葉もなく帰った。また一人、おいしい日本人を亡くしてしまった。

J A P A N N O W 観光情報協会の副理事長を務めた元 J R 貨物社長、会長（元国鉄副総裁）の橋元雅司氏が8月13日、77歳で死去されました。10月30日午前11時30分からホテルニューオータニで J R 貨物主催のお別れ会が行われます。

私はかつて報道関係者として運輸省（現国土交通省）を担当し、橋元氏とは J R 貨物の社長のころからお付き合いをさせていただいた。分割、民営化前の国鉄は自動車交通の発達などで累積赤字が増え、身動きがとれなかったのです。そして20年前に旅客5社と貨物1社に分割、民営化されて再建が図られた。東日本、東海、西日本の旅客3社は自助努力により業績が向上し、J R 貨物も健全経営の基盤が確立されました。

橋元氏は国鉄貨物局長を経て副総裁になられ、J R 貨物の発足で社長、会長を務めたわけですが、同氏が導入したトラック輸送との競争強化策は「モーダルシフト」でした。

これは例えば東京―大阪間の貨物輸送は定時性のある J R 貨物が担当し、貨物ターミナル駅から先はトラックで運ぶという画期的なシステムです。私は当時、テレビニュースのキャスターも担当していたので、この新しい物流システム「モーダルシフト」を実写を含めて紹介したが、そのビデオを見た橋元氏は「わずか3分ほどのニュースだったが、分かり易く紹介していただき、感謝」と喜んでいました。地球環境の保全という立場から二酸化炭素の排出量が少ない鉄道の活用は荷主に好評です。

また、橋元氏は政界、官界、経済界に人脈の多い方でした。J N 協会の副理事長をお願いし、観光立国とNPOが果たすべき役割を教えてくださいました。

橋元氏ご自身もクラシック音楽関係のNPO法人を設立され活動されていました。葉巻を手に話をする橋元氏の姿が偲ばれます。（白澤）

2007年に逝去された方々（敬称略）

安藤百福（インスタントラーメンの父、1月、96歳）
阿久 悠（作詞家、8月、71歳）
小田 実（作家、7月、75歳）
河合隼雄（元文化庁長官、7月、79歳）
平岩外四（元経団連会長、9月、92歳）
宮沢喜一（元首相、6月、87歳）

植木 等（俳優、無責任男で売る、3月、80歳）
城山三郎（作家、「官僚たちの夏」、3月、79歳）
伊藤一長（長崎市長、銃撃で死去、4月、61歳）
瀬島龍三（元陸軍参謀、伊藤忠、9月、95歳）
熊井 啓（映画監督、5月、76歳）
羽田健太郎（ピアニスト、6月、58歳）
山口小夜子（ファッションモデル、8月、57歳）

以下は、観光関係者の一部です

宮下 稔（京阪電鉄元社長、8月、87歳）
馬渡一眞（元国鉄副総裁、鉄道友の会会長4月、83歳）なお、鉄道友の会の後任会長には、J N 協会副理事長の須田寛氏が就任しています

皆様のご冥福をお祈りします

東京 霞が関の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

観光立国を支える人たち

Jeffrey S. Bermier 氏
ノースウエスト航空日本支社長

—07年7月15日に日本進出60周年を迎えました。戦後最初に日本にきた航空会社ですね。

そのとおりです。米国からどのようにして日本に飛ぶかを考えた、ということです。日本政府からは日本航空の指導も頼まれました。日本の航空業界ではリーダーの役割を果たしてきました。その後、日本航空も全日空もライバルになって戦っています。60周年についての記録はインターネットなどで書いています。

—日本ではどのような活動をしていますか？

東京、大阪、名古屋を中心にして日本からのお客やハワイ、ミクロネシアからのリゾート客を運んでいます。最近韓国、中国からのお客も増えています。日本政府のビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)のおかげです。日本は大きな市場であり大切に育てています。新聞、雑誌などに宣伝するとともに機内では日本人に特化した日本語の映画や食事などサービスしています。

—日本の航空会社との競争は激しいと思いますが、どう見えていますか？

競争は激化しています。日本の航空会社とともにノースウエストも育ったと思っています。JALとは今でもマイレージは総合乗り入れしています。ライバルであると共に仲間でもあります。

—日本の空港についてはどう考えていますか？

うちは羽田からの発着便を持っていましたが、成田に移されました。羽田に戻すように運動していますがダメですね。成田は都心への時間がかかりすぎます。30分で行けるようにしなくては競争力がありません。そういう意味から羽田からの発着を望んでいます。

—中華航空が那覇空港で飛行機が炎上しましたが、安全については大丈夫ですね。

安全第一は当たり前であり、言うまでもないことです。米国連邦航空局(FAA)の基準はもちろんのこと、国土交通省の基準も守っています。

—日本政府が進めているVJCへの協力はどのようにしてやっていますか？

台湾からの客は日本でそのまま運転免許証が使えることを台湾で宣伝して観光客が来やすいようにお手伝いしています。国土交通省や東京都と協力してマスコミのインタビューなどを受けています。

ジェフリー・S・バーミアー 1994年ミネソタ州セント・オラフ・カレッジ卒業。同年ノースウエスト航空(ミネアポリス)に入社。マーケティングシステム開発部に配属。96年12月に来日、07年6月に日本支社長。35歳。

冬柴国土交通相が観光庁設置を表明

冬柴鉄三増国土交通相は2008年度に観光庁を新設する方針を明らかにした。これは8月22日に訪問先の上海で記者団に明らかにしたもので、観光庁構想は冬柴大臣の正式表明で一歩前進した。観光庁を作る構想は昨年12月に国会で観光立国推進基本法が成立したときに衆参両院で設置を求める決議が行われていた。

現在の観光部には局長級の総合観光政策審議官をトップに観光政策課、国際観光課、観光事業課、観光地域振興課など6課あり約80人が働いている。この観光部を外に移し、スタッフも現在よりも20人増やし100人にし、2010年までに外国観光客を1000万人に増やす。海外で観光PRを積極的にする一方で、観光ビザの発行手続きの緩和や日本の地域観光の振興策を行う。

行政改革が叫ばれている中で観光庁を新設することは抵抗があるために、国土交通省にある海上保安庁、気象庁、海難審判庁の統廃合も検討している。

G A Hの導入に取り組む

幸福度の指標化目指す荒川区

東京都荒川区財政課長 後藤徹也

中国とインドに挟まれたヒマラヤの中腹に位置する仏教国ブータンは、GNH(国民総幸福量)の最大化を国家目標として掲げていることで知られている。物質的な豊かさだけでなく、国民一人ひとりの「真の豊かさ」を希求するこの理念は、経済力の向上のみに目を向けてきた世界の国々に対して一石を投じてきた。

東京23区の東北部に位置する荒川区では、このGNHを参考としてGAH(荒川区民総幸福度)の導入に取り組んでいる。

西川太一郎区長は、平成16年の就任以来、区のドメイン(事業領域)を「区政は区民を幸せにするシステムである」と定め、GAHの指標化の取り組みを進めている。住民福祉の向上が自治体の目的であることは言うまでもないが、幸福度を指標化する試みは全国でも例がないのではないと思う。投稿者・後藤課長 直通03-3802-3199

女将さんらがタイで「日本へいらっしやい」

9月はじめ、老舗旅館の女将15人がタイ・バンコクのホテルでセミナーを開いた。集まった約70人の旅行関係者やマスコミに、和服姿で日本旅館の良さ、温泉の楽しさなどをPR。

政府が進めているビジット・ジャパン・キャンペーンに沿ったイベントで、タイ人の日本訪問者を増やそうという狙い。女将らは、タイ国内数か所を回った。

観・光・人・国・記

観光客いやビジター倍増目指す
平和市長会議の会長を務める

秋葉 忠利・広島市長

1942年東京都生まれ。東大

理学部、マサチューセッツ工科大博士課程卒(Ph.D.)。広島修道大学教授などを経て、1990年衆議院議員。3期務めたあと99年2月、広島市長初当選。07年4月3選。米国生活20年近く。「報復でなく和解を」(岩波書店)など著書多数。



「ヒロシマ」—この世界で最も知られた都市の市長・秋葉忠利氏。お話を伺って「この人は観光の本質をきちんと捉えておられる」と思った。

2002年、湯布院を有名にした立役者の一人である猪爪範子(いのづめ・のりこ)さんを企画総務局の理事に迎え作成した観光振興の基本計画は「ビジターズ倍増に向けて～千客万来の広島の実現～」と表題が付いている。

秋葉市長によると「かつて広島市民の中には『被爆を売り物にするのは怪しからん』と主張する人がかなりいました。しかし、私は“売り物”にするのではなく、人と人の交流を増やすことが平和につながると考えています。だから外国人を含め広島へ多くの人に来て頂きたいのです。ですから観光客という言葉の代わりにビジター倍増、としたのです」。

“観光は平和へのパスポート”と言われているが、秋葉市長の考えは、まさに本質を突いている。

この倍増計画は当初、年間3700万人を超えた広島訪問者を、7000万人にという壮大な構想である。そのための方策として37のアクションプログラムを掲げているが、中には“原爆ドーム”という見出しは見当たらない。その代わりに、“平和のホスピタリティ”、“平和グッズ”という項目が登場する。

また水の都と言われる広島の特徴を生かした水辺のオープンカフェ(一面参照)、山を守り、名所にする市民運動など風光明媚を訴える項目も並ぶ。

「広島の周辺には多くの里山があり、自然と触れ合い森林浴が楽しめるハイキングコースになっています。これらの整備、保全は市民もボランティアで当たっているのです。世界でもっとも魅力的な都市200をリストした「The Cities Book」に、日本では東京、京都と並んで広島が選ばれましたが、この本社を訪れた際に里山ハイキングの話をしましたら、『それこそ私たちが目指す都市像です』と感心されました」と秋葉市長。

そうは言っても、やはりヒロシマは世界で最初に原爆被害を受けた街であり、それに触れないわけには参るまい。いわんや秋葉市長は、世界1732の都市

が参加している「2020年までに核兵器廃絶を目指す平和市長会議」の会長なのだから。

「世界中から多くの人に参加する各種学会を積極的に誘致しています。国内では修学旅行生に来てもらうことです。2005年に修学旅行誘致を担当する部署を新設しました。その効果は出て、一時落ち込んだ入り込み観光客が、ここ2年1000万人ラインを復活しました」という。若い人たちが原爆ドーム、平和記念資料館を訪れ、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを肌で感じること、それこそが秋葉市長が目指すことなのだろう。(加納)

水の都・広島で水上タクシーを運営
NPO法人「雁木組」理事長の氏原睦子さん

初めて尽しのインタビューだった。まず、この欄は旅館や料亭の女将シリーズだが、氏原睦子さん(写真)は、NPOの理事長。また“同業”といえるNPO取材も初。

『雁木組』は、水の都・広島の6つの川にある400近い「雁木」から取った名前。干満の差が4mもあるという広島の川には、川岸から川面に向かって階段状のアクセスがある。これが雁木である。このうち約50の雁木を発着場に、水上タクシーを運行させている。

NPO事業の柱である『雁木タクシー』は6人乗りのモーターボート3隻で運用している。「水上から見る広島の街は、また各別。市民の足にと3年前に始めたのですが、いまは観光客が主体になっています」とか。2年で1万数千人が利用した。

『雁木組』は、このほか雁木の補修、川面や川辺の清掃、水辺コンサートの開催なども手掛けており、会員は高校生から退職者まで幅広い年齢層からなっており、職種もマチマチ。「技術を持った人が多く、私は“プロ集団”だと言っています」と氏原理事長。広島を訪れる高校生が流す“鎮魂灯籠”を回収する作業も行っている。

もともとは、長野の出身だが東京で設計の仕事をしていたときに、ご主人と知り合った。ご主人が原爆ドームや厳島神社、錦帯橋の修復、保全に呼ばれて広島にやってきて8年、いまや奥様の方の知名度が高くなったようだ。

タクシー儲かりますか？事業資金は？

「まだタクシーでNPO運営はムリですが、もっと隻数を増やし、広島の名物に育てたい」と意気軒昂。いまはマイクロソフト社のような民間企業、市の支援を受けている。マイクロソフトとの関係は、川の干満の日時を調べ、どの雁木が使えるのか調査している過程で生まれたという。

元気印の女性理事長のご活躍を祈りつつ、広島を離れた。(加納)

『雁木タクシー』 (082-230-5537)

<http://www.gangitaxi.etowns.net/>



「観光立国と私の提言」④

相撲の「黒海」で知られる国

グルジア臨時代理大使に聞く

JN会員 加藤 和子

グルジアという国について、「ゴルバチョフ政権のシュワルナゼ外相が大統領になった」……というぐらいの予備知識しか持たずに、デビッド・ノザゼ臨時代理大使に会いに行った。今年2月に開設されたばかりの在日大使館の30代の初代大使だ。なまりのない日本語で、グルジアの魅力について熱心に語ってくれた。



グルジアは黒海の東岸に面した亜熱帯のリゾートと5000メートル級の高い山々を擁する豊かな自然に恵まれた小国だ。面積はスイス程度。2014年の冬期オリンピックの開催が決まったロシアのソチも、実はかつてグルジアの領土だったという。そして、その自然の中に、素朴なフレスコ画に装飾された中世から変わらぬキリスト教建築が溶け込んでいる。

4世紀にキリスト教を国教とし、現存するもっとも古い教会、ボルニシのバシリカが建てられたのは5世紀後半。古都ムツヘタのゲラティ・バグラティ修道院など3カ所が世界文化遺産。日本ではなかなかお目にかかれないが、ワインでも知られている。

グルジアでは紀元前5000年ごろからワイン作りが

始まり、ワイン発祥の地を自認している。エジプトのクレオパトラが愛飲していたと言われている。まさか……と思うが、「スカラブ」というエジプトの虫の化石が出土しており、はるか昔から交流があったことは確かだという。英国のチャーチル元首相が、グルジアの「キンズマラウリ」を好んでいたこともワイン好きの間で知られている。インタビューの際に、試飲させてもらったアイスワインは、ノザゼ大使が、いつもお土産に持ち帰って大切にしているものだそうだが、甘くフルーティでいくらでも飲めてしまいそうだった。

さて、日本からのアクセスは……というのと、これがちょっと大変だ。もちろん直行便はなく、丸1日以上掛かる。トランジットにも長い時間が掛かることを覚悟しなければいけない。しかし、ノザゼ大使は、この乗り換えがグルジア旅行の一つの魅力だと強調する。ドイツのミュンヘンやオーストラリアのウィーン経由もあるが、大使のお勧めは、トルコのイスタンブール経由だ。確かに、空港から飛び出してエキゾチックなバザールやモスクを訪れれば、気分はすっかりオプショナル・ツアーだ。

海・山のリゾートと歴史、文化、ワインやグルメに加えてスキーやトレッキングなどスポーツも楽しめるグルジア。ちょっと遠いのだが、ありきたりの旅行には飽き足らない人々に、きっと満足を与えてくれるだろう。



C O L U M N

インフレと瀑布

十数年前メキシコ国内を旅行中、支払いの度ごとに目をパチクリさせられた。噂に違わずハイピッチで昂進するインフレに出くわして度肝を抜かれたものである。

当時メキシコのインフレは末期的となり、私が訪れる直前に、突然平価を3桁切り下げた。金額の異なる同じ図柄の紙幣が2種類発行されたのである。一見しただけでは、まるで10ペソと10,000ペソの区別がつかない。うっかりすると支払い時に計算を間違いかねない。随分神経と時間を使ったものである。

アフリカ・ジンバブエが国家存亡の危機に瀕している。経済破綻に伴うインフレの昂進が、国家を破滅状態に追い込んでいるのだ。ここには、ザンビアとの国境、ザンベジ川に世界三大瀑布のひとつ、世界遺産・ヴィクトリアの滝がある。イギリス人探検家リヴィングストンが発見した名瀑である。セスナ機から立体的に豪快な滝を見下ろす満足感と、地上でびしょ濡れになりながら臨場感とともに味わう爽快感は、行ってみないと分からない。

ジンバブエのインフレ率は、今年5月僅か1ヶ月間で、4,500%を超えたというから驚異的である。八月には、中央銀行がついに最高額紙幣を発行したというが、その額面が何と200,000ジンバブエ・ドルという天文学的な数字である。しかし、その価値は日本円でほんの1,500円程度だという。IMFの見立てによると、年内にはそのインフレ率は100,000%に達するといふのだから、もはや手の施しようがない。

こうなるととばっちりを受けるのは決まって貧しい庶民である。埃っぽい首都ハラレの市場は、訪れたときには中々活気があったが、最近の報道では、商店街から物資が姿を消し、商店にはほとんど商品が見当たらないという。

あの名瀑は、轟音とともにいまも変わらず水煙を吹き上げていることだろう。 (近藤)

「世界遺産物語」・・・②

世界遺産はほかにもないか？

近藤 節夫

いまユネスコが承認している世界遺産は、851箇所である。日本でも14箇所が登録されている。どれをとっても見てみたい、行ってみたい魅力的なところばかりである。その人気にあやかって、TV番組放映や、書籍類がはんらんして、遂に「世界遺産人気ランキング」なる奇妙な風潮まで現れてきた。中には、ユネスコが一方的に決めるのはおかしいとばかり、「裏世界遺産」とか、「影世界遺産」と称して本末転倒な企画まで登場してきた。まるでプロレスやボクシングの興行権争いと遜色なく、本来の主旨から外れかねない。

今年7月、「新・世界七不思議財団」と称するスイスの財団が、世界中からインターネットで寄せられた1億通の投票により、古代の「世界七不思議」に代わる新しい七つの建物を、世界の七不思議として選出した。7つの建物は、すでに世界遺産にも登録されており、素晴らしい建造物ばかりだが、何をいまさらという気がしないでもない。

「世界遺産」とは、接しているだけで心に安らぎを与えてくれ、想像力を掻きたて夢を与えてくれるものであると思う。そうだとすると、現在文化遺産自然遺産、複合遺産と区分けされている世界遺産以外にも、まだ目を凝らせば素晴らしい文化遺産があ

お断り

今月号は「お得な情報」、「寺前提言」、「立教支部便り」は、お休みとさせていただきます。また、「あめりか通信」は著者の井上会員の本来超多忙につき、しばらく休載です。

NEW SPOT

in japan ④

鉄道博物館

鉄道マニアならずとも、待ちに待った鉄道博物館がさいたま市に10月14日オープン。東京・神田の交通博物館が手狭で86年の歴史を昨年5月に閉じたあと、鉄道に特化して明治・大正・昭和の御料車など実物36両を一堂に集めた世界トップ級の展示だ。

JR大宮駅からニューシャトル(埼玉新都市交通)で3分、1つ目の「鉄道博物館」駅に直結。これまで駅名は地元の「大成(おおなり)」だったが開館に合わせて改称し、運行も15分に1本だった昼間を、土日祝日は10分間隔にするなど大幅増発ダイヤを組んだ。

日本最大のHOゲージ鉄道模型のジオラマに目を見張る。600両の車両が延長1,400mのレール上を最大20編成で走行する。観覧は混雑を予想して1日4～6回の入れ替え制で、館内に入ってからSuicaなどに予約登録して順番待ちだ。D51や新幹線の運転シミュレーターや、屋外の1周230mを3人乗り車両で運

るのではない。実際、人類共通の遺産という以上、文化遺産の中に、形はなくても心を癒してくれる芸術「無形文化遺産」なんかも検討してみてもどうか。音楽やお祭り、民族舞踏なども採用する資格と価値があると考えている。

例えば、その場所ならではのステージと曲の雰囲気を取り合わせが絶妙で、最高のパフォーマンスとなるギザのピラミッド傍や、ヴェローナのアリーナで上演されるオペラ「アイーダ」、その他リオのカーニヴァル、祇園祭り、バリ島のケチャック・ダンス等々も世界的な人類共通の文化遺産として、永劫に守り続けていくべきではないかと思っている。

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階
JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2007年11月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2007年11月25日。締め切りは11月15日。



新幹線など列車往来に囲まれる流線型外観の鉄道博物館

転できるミニ列車など、子どもたちも1日十分に楽しめる。

2階の壁面は写真とともに綴る「鉄道歴史年表」。1825(文政8)年に英国で蒸気鉄道が開業した時から盛り込んだ鉄道百科。情報量が豊富で、細かい文字も多く双眼鏡持参がいい。2階ギャラリーは企画展「新幹線の挑戦」を開館から08年2月25日まで。博物館は10時から18時まで。この年末まで無休で、年が明けて原則火曜休館に。入館料1,000円(小中高生500円、未就学児200円)。(写真・文 林 莊祐=会員)

日本初の週間夕日情報

日本の夕日百選も選ばれている宍道湖の夕日を観光スポットとしてPRしようと松江市と松江観光協会が8月からホームページで「夕日予報」の発表を始めました。

「松江 宍道湖 夕日情報」のホームページには、週間夕日指数（夕日予報）、宍道湖周辺の夕日スポットの紹介、宍道湖の夕日ギャラリー（絶景写真集）、夕日スポ

ット撮影情報などが掲載されています。企画を温めてきた松浦正敬市長は「全国どこにいても、いつきれいな夕日が見られるかが分かる。多くの人に松江を訪れてもらい名物の夕日を鑑賞してほしい」と呼びかけています。

さて、ホームページの目玉となる日本初の週間夕日情報は、日本気象協会が提供のお手伝いをしており、夕日指数は宍道湖に映える夕日が見える度合いを指数として表現しています。指数は、様々な気象条件や地形的特性を考慮し、

夕日が見える時間帯の雲の量や夕日そのものが見える時間数から算出されます。指数の値が高いほど、よりよい気象条件で夕日をご覧いただくことができます。

情報は1日3回(06:30, 12:30, 18:30)更新されますので、夕日を見たいという方は是非ご覧ください。

週間夕日指数					
09月06日(木)	09月07日(金)	09月08日(土)	09月09日(日)	09月10日(月)	09月11日(火)
60	50	60	100	60	100
					
おおむね夕日が見られそう 日没時間 18:29	おおむね夕日が見られそう 日没時間 18:28	おおむね夕日が見られそう 日没時間 18:26	はっきりと夕日が見られそう 日没時間 18:25	おおむね夕日が見られそう 日没時間 18:23	はっきりと夕日が見られそう 日没時間 18:22

松江宍道湖夕日情報のインターネット http://www.kankou-matsue.jp/shinjiko_yuuhl/

財団法人日本気象協会 小笠 顕

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公表していません)

名誉顧問：松山善三(映画監督)
 理事長：松尾道彦(日本海事センター会長、前日本鉄道建設公団総裁)
 顧問：丹羽展(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
 副理事長：白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株JALUX特別顧問)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
 支部長：片山文彦(新宿)、水野卓哉(北陸)、田久保万里夫(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2007年09月25日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、射水市(富山県)、(株)井六園ワールド、岩田建設(株)、(株)エスシー・マシーナリ、(株)HKIアクシス、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ババレジ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、パーキングプロ(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店(株)丹青社、中部電力(株)、ティーシートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、福岡空港ビルディング(株)、(株)フェイクデリックホールディングス、(株)フィールドサービス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマリックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page <http://www.japannow.org>

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長：加納 隆(JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

中国支部設立記念講演会に、広島在住の高校時代の友人8人が参加してくれた。講演会後に繁華街へ席を移して、久しぶりのミニ同窓会となった。そこで、いくつか厳しい指摘を受けた。まず総会の式次第について「中国支部なのだから、来賓挨拶は中経連会長か中国運輸局長が先、広島県知事や市長は後でいい」とか「来賓が多すぎ、並び方にも官尊民卑の匂いがする」、「全体の運営が旧態依然の感あり」など。講演会についても、「須田さんの話はよかったが、後の方の話は観光面とどう関係があるのか?」とも。「まあ、そう言うなよ。乏しい予算の中でボランティアで懸命にやっているのだから」と言い訳したが、マンネリになりかかった講演会等の運営方法は、一考を要するのかな。(加納)